News Release

株式会社インターネットインフィニティー
（コード番号：6545 東証グロース）
〒102-0084 東京都千代田区二番町 11-19
興和二番町ビル 2 階
https://iif.jp

2024 年 10 月 16 日

株式会社インターネットインフィニティー
一般社団法人 くすりの適正使用協議会

【インターネットインフィニティー×くすりの適正使用協議会】医療介護連携の要であるケアマネジャーが医薬品情報を理解して適切なケアにつなげるための支援が求められる

共同リリースのため、重複して配信される場合がございますが、あらかじめご了承ください。

2025 年を目途に全国で地域包括ケアシステムの構築が進められています。高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるようにするためには、医療と介護の連携をスムーズに行い、適正な医薬品の使用を促すことも重要なポイントとなります。

そこで、一般の方にも理解しやすい医薬品の適正使用情報「くすりのしおり」※の提供などを行っている一般社団法人 くすりの適正使用協議会（所在地：東京都中央区、理事長：俵木登美子、以下「協議会」）と、介護支援専門員（ケアマネジャー）向けの会員制ウェブサイト「ケアマネジメント・オンライン」を運営する株式会社インターネットインフィニティー（本社所在地：東京都千代田区、代表取締役社長：別宮 圭一）は、共同で介護職（ケアマネジャー）の医薬品情報へのアクセス状況や課題を明らかにするためのアンケート調査を実施しました。

※「くすりのしおり」は製薬企業約 180 社が、医療用医薬品の添付文書の内容に基づき、一般の方にも理解しやすいように簡潔かつ平易な言葉でまとめた医薬品情報提供書です。必要に応じ更新され、常に最新の情報として提供しています。
https://www.rad-ar.or.jp/siori/

■調査概要

調査名：「医薬品情報に関するアンケート」
期間：2024 年 8 月 3 日～2024 年 8 月 13 日
調査パネル：「ケアマネジメント・オンライン」に登録する会員ケアマネジャー（居宅介護支援事業所もしくは地域包括支援センターに勤務）
調査サンプル数：547 名
調査方法：WEB アンケート

当調査の回答者は、主任ケアマネジャー350 人（64%）、ケアマネジャー197 人（36%）であり、居宅介護支援事業所に勤務する者が 91%、地域包括支援センターに勤務する者が 9%でした。医療系の資格保持者は約 15%にとどまり、ほとんどが介護福祉士や社会福祉士などの介護・福祉系の資格保持者でした。年代は 40 代が 30.7%、50 代が

38.0%、60 代が 24.5%であり、ケアマネジャーとしての経験年数は 5 年未満が 8.8%、5 年以上 10 年未満が 21.0%、10 年以上 15 年未満が 29.1%、15 年以上が 41.1%であり、経験豊富なベテランケアマネジャーが回答者の多くを占めていました。

■ケアマネジャーはケアプラン作成や利用者・家族の質問対応、医療者との連携のために医薬品情報を調べている

ケアマネジャーに「**日常業務で個別の医薬品情報を調べることはどれくらいありますか？**」と尋ねたところ、月に 1 回以上（48.1%）と回答した者が最も多く、次いで 1 週間に 1 回以上（30.9%）、6 か月に 1 回以上（11.2%）、1 年に 1 回以上（2.6%）、毎日（2.4%）となりました。個別の医薬品情報を調べることはないと回答したのは 4.9%に過ぎず、多くのケアマネジャーは月に 1 回以上は医薬品情報にアクセスしているという実態が見えてきました。

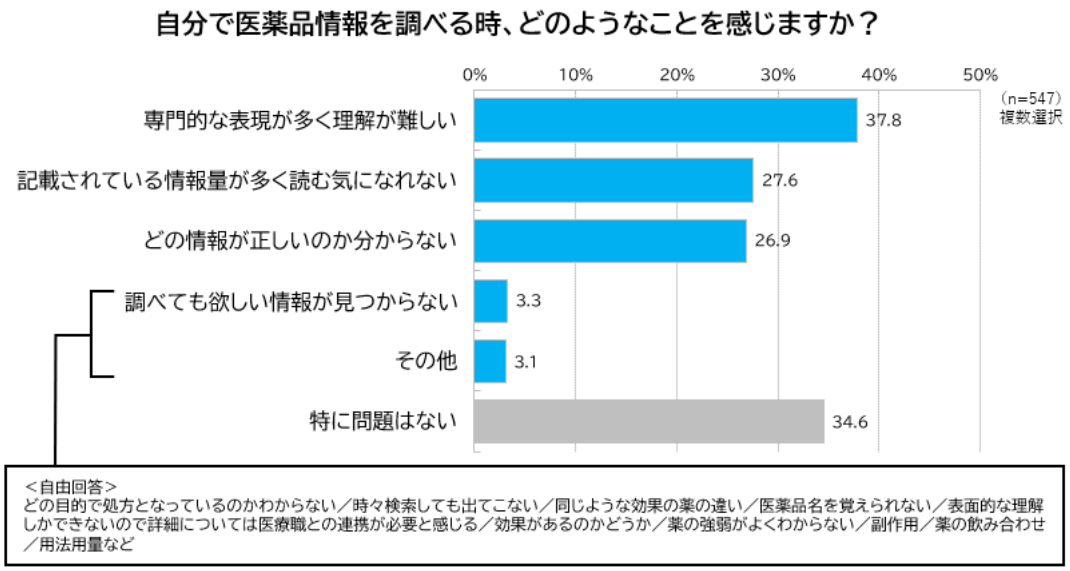
次に「**どのような時に個別の医薬品情報を調べますか？**」と質問したところ、ケアプランを作成する時（59.6%）と利用者または家族から医薬品について質問された時（59.4%）という回答が多く、次いで医療職（医師・薬剤師・看護師）とのコミュニケーションの為（47.7%）、介護スタッフから医薬品について質問された時（22.9%）という選択肢が多く選ばれました。

ケアマネジャーの 8～9 割は介護・福祉職の資格保持者であり、医薬品情報について必ずしも詳しくない中で、ケアプラン作成や利用者・家族の質問対応、医療者との連携時に、自ら医薬品情報を調べているようです。

■医薬品情報は専門的な表現が多く理解が難しいと感じるケアマネジャーが多い

続いて「**日常業務で個別の医薬品を調べる場合にどうしていますか？**」と尋ねたところ、88.5%のケアマネジャーが都度インターネットの検索エンジン（Google、Yahoo!等）で検索して調べると回答しました。薬剤情報提供書（薬情）を確認する（40.6%）および医薬品添付文書を確認する（17.9%）は半数以下にとどまり、医療職に照会する頻度も高くはありませんでした（薬剤師に尋ねる；29.6%、看護師に尋ねる；27.1%、医師に尋ねる；9.3%）。

また、医薬品情報を調べる際にいつも決まった媒体を用いて調べているというわけではなく（決まった WEB サイトで調べる；8.2%、専門書籍で調べる；2.2%）、その都度、検索エンジンで表示された候補を見て回るという行動がメジャーであるようでした。

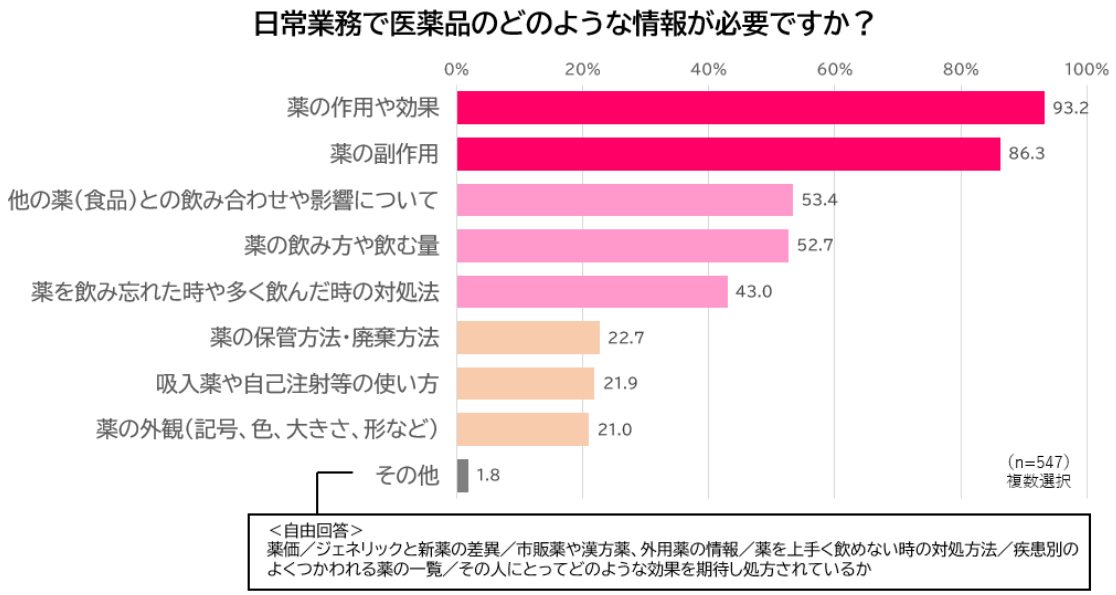


さらに「**自分で医薬品情報を調べる時、どのようなことを感じますか？**」と尋ねた結果を上図に示します。専門的な表現が多く理解が難しい（37.8%）という回答が最も多く選択されました。次いで、記載されている情報量が多く読む気になれない（27.6%）、どの情報が正しいのか分からない（26.9%）という選択肢が多く選ばれました。逆に、特に問題はないと回答したケアマネジャーは 34.6%いました。

医薬品情報を調べる際に困難を感じているケアマネジャーは約 7 割にのぼり、これは医薬品に関する専門的な教育を受けていない者が多いために、医薬品情報に接した際に難しさを感じたり、どこを読めばいいのか迷ったり、正しい情報がどれか分からなかったりするためではないかと考えられます。

■ケアマネジャーにも分かりやすい医薬品情報が求められている

そもそもケアマネジャーが必要とする医薬品情報とはどのようなものなのでしょうか。「**日常業務で医薬品のどのような情報が必要ですか？**」と質問した回答を下図に示します。



薬の作用や効果（93.2%）や薬の副作用（86.3%）が多く、医薬品の使用目的や安全性を確認したいというニーズが強いようです。次いで、他の薬（食品）との飲み合わせや影響について（53.4%）、薬の飲み方や飲む量（52.7%）、薬を飲み忘れた時や多く飲んだ時の対処法（43.0%）など、服薬管理上の注意点が挙がりました。薬の保管方法・廃棄方法（22.7%）、吸入薬や自己注射等の使い方（21.9%）、薬の外観（記号、色、大きさ、形など；21.0%）について知りたいと答えたケアマネジャーも決して少なくはありませんでした。

加えて、「**日常業務で医薬品情報について気になっていること、困っていることがあれば教えてください**」という自由回答（任意）の質問も行いました。回答者 547 人のうち 329 人が回答し、そのうち特になし、困っていないといった回答を除外した 194 回答をまとめた表を下に示します。

日常業務で医薬品情報について気になっていること、困っていることがあれば教えてください。

カテゴリ	主なコメント	
服薬管理の問題	● 飲み忘れや多く飲んでしまった場合の対応。 ● 疾患により覚醒状態が悪くて飲ませられない場合の対応方法がわからない。 ● 薬を潰したり、お湯で溶かしたりしていいか。 ● 一包化は可能かどうか。	● 副作用と思われる症状（どんな症状）があった時に中止したらよいか。 ● どの薬にも副作用が沢山あり、薬による副作用かわからない。 ● 残薬が多量に見つかった時の対処、勝手に破棄して良いのか。 ● 頓服処方された薬を長期間保管しており、明確な保存可能期間の記載がないため、本当に飲んで大丈夫なのかの判断が難しい場合がある。
利用者の問題	● 利用者さん自身がこの薬が何に効くかなど理解していないことが多い。 ● 複数の病院へ行っている人が、薬の情報を一括して医師に渡せているのか疑問。 ● 薬の飲み合わせについて薬局に相談しているかが不明。 ● 処方薬が多過ぎて、勝手に薬を調整してしまう人がいる。	● お薬手帳を持っていなかったり（紛失）、薬情をすぐに捨ててしまっていて、一包化されているとどの薬品をどう服用しているのかわからない。 ● 情報をこちらが理解して利用者及び家族に伝えても理解が得られない。 ● 何度説明しても別々の調剤薬局で処方してもらう方が一定数いる。
ケアマネまたは多職種連携の問題	● どこに何を相談したら良いかわからない。 ● 病気や症状がないのに処方されている場合があり、理由が分からない。 ● 医薬品情報で書かれている内容と、処方箋を書いた医師の意図が一致しないことがあるとき、どのように理解したらよいか困る。 ● 何種類も服用していて、同じ効果を記載されている場合、どういう効果があり、副作用もどうなるのか分からない。	● わからないことを聞かれて困る。 ● 用量まではチェックできない。 ● 薬剤情報を更新するのが手間。 ● 専門用語を覚えるのが大変である。 ● 情報が多すぎてわかりにくいことがある。
薬剤情報の問題	● 簡単に整理されている資料がない。 ● 文章が難しく、理解しにくいものが多い。 ● 専門用語が多い。 ● 高齢者や初心者でも理解しやすいようにしてもらいたい（文字の大きさ、短文、端的、具体的にどうすれば、どのような時に、など）。 ● 飲み合わせ、副作用などの情報を知るのが大変 。 ● ネット検索して、効用効能がすぐわかる場合は少ない。 ● 一覧があっても何で検索すればよいのかわからず困る。	● 院内処方の医院では薬情をもらえないことがある。 ● 薬局でもらう薬の情報はわかりやすく記入しすぎて、他の薬との違いの区別が分かりづらい。 ● 調剤薬局により、薬情の内容に差がある。 ● お薬手帳には、薬の名前は載っているが、効能が書いていない物が多いので、効能も記載あれば良いと思う。 ● 薬の値段も知りたい。 ● 自己注射などのしかたなど簡単な明記があれば説明しやすい。
薬剤名の問題	● 名前だけでは剤形の判断ができない。 ● 後発品などが多くて、毎回調べなくてはならない。 ● 基本の薬の名称がある上に、薬品メーカーにより名称が異なる、名称の情報量が多く戸惑うことがある。 ● カタカナで長い名称が多く、フェイスシート等作成時、転記ミスをしそうになる。	● ジェネリック品等の薬品名が多すぎて検索できない場合がある。 ● ジェネリックも増え、先発品との関連性がわからないことがある。 ● ジェネリックとの効果の違いが分かりにくく、どちらを選択するべきかもやもやする。利用者に尋ねられても回答できない。 ● 同じ薬なのに、効果が違うものがある。

全329回答のうち、特になし、困っていないといった対象外の回答を削除した194回答をまとめた（一部読みやすさのために改変）

医薬品に関する疑問点は医師や薬剤師などの医療職に照会することで正しい情報が得られると考えられますが、先ほどお示しした通り、ケアマネジャーはいつでも気軽に医療職に尋ねられる状況ではないようです。

このような状況を踏まえると、介護・福祉職出身のケアマネジャーであっても理解しやすく、ニーズに合った情報が得られる仕組みを整えることが重要であり、かつインターネットを通じて容易にアクセスできることが求められます。

今回の調査では、協議会サイトで公開している一般向けの信頼出来る医薬品情報「くすりのしおり」についても聞いています。その中で「くすりのしおり」を知っていると回答したケアマネジャーは 19.2%でしたが、実際に「くすりのしおり」の 1 例を確認してもらった所、今後活用したいと言う意見も多数ありました。協議会は今後、ケアマネジャーに対する「くすりのしおり」の認知度を高めて行きたいと考えています。なお、更に詳細な結果は関連学会等にて発表することを検討しています。

株式会社インターネットインフィニティー：
全国のケアマネジャー10万人が登録するウェブサイト「ケアマネジメント・オンライン」（https://www.caremanagement.jp/）、全国にリハビリ型デイサービス「レコードブック」（https://www.recordbook.jp/）を展開するなど、健康寿命の延伸に向け、様々なヘルスケアサービスを運営。
介護関係者や介護家族を対象とした調査や、疾患啓発、勉強会の集客支援、資材制作などの情報発信サポートを承っており、製薬会社や医療機器メーカーの皆様にご活用いただいております。

一般社団法人 くすりの適正使用協議会：
くすりの適正使用協議会は、くすりの適正使用を普及・啓発するために、1989 年に創立されました。「誰もが健康な生活を実現するため、信頼できる情報をもとに判断し、行動できる社会を目指す」ことを VISION に掲げ、様々な会員が活動に参加しています。医療用医薬品の情報を患者さん向けに分かり易く記載した「くすりのしおり」や、製薬企業の作成する患者さん向け情報を「くすりのしおりミルシルサイト」で提供するほか、医薬品の本質を評価する「薬剤疫学」の普及促進、くすり教育の支援などに取り組んでいます。
https://www.rad-ar.or.jp/
https://www.rad-ar.or.jp/siori/

■■■ニュースリリース及びサービスに関するお問合せ先■■■
株式会社インターネットインフィニティー　Web ソリューション部（担当：中山）
TEL:03-6897-4773　FAX:03-6897-4778　MAIL: ynakayama@iif.jp

一般社団法人 くすりの適正使用協議会（担当：樋口・安井）
TEL:03-3663-8891　FAX:03-3663-8895　MAIL:pr@rad-ar.or.jp

■■■その他 IR に関するお問合せ先■■■
株式会社インターネットインフィニティー　IR 担当
TEL:03-6897-4777　MAIL: ir@iif.jp